

・復活後第二主日

# 泉のほとり

今日の詩編 第二十三編

主は羊飼ひ、

わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ

憩いの水のほとりに俤い

魂を生き返らせてくださる。



## ああ、愚かな者たち

主が十字架で死なれたのは午後三時頃でした。二、三時間後には安息日が始まるため、アリマタヤのヨセフは急いで十字架から主の体を取り下ろして、ユダヤ人の習慣に従って、墓に葬り納めたのだと思います。主の弟子たちにとっては昨日まで一緒に食事をして、教えをいただいたのです。しかし今はおられない。安息日が終わり、すべてが動き出した時にはその事実がもつと大きく迫ってくるものだったのでしよう。そのような中で、安息日の翌朝に仲間の女たちが主のお墓に行き、そこで天使たちに会い、主が復活されたとの話を伺ったと証言するのです。戯言のような彼女たちの証言を聞き、もうエルサレムにいたくないと思つたのでしようか、エルサレムを離れ、エマオに向かつて行く二人の弟子たちがいました。暗い顔をしたながら歩く二人に、復活された主が近づかれますが、彼らの目は遮られ、主だとは気づきません。そして二人が今話している内容について何われしました。

「この数日に起こったことをあなただけでは知らなかつたのですか」、「ナザレのイエスのことです。神と民全体の前で行いにも言葉にも力のある預言者でした」と。また「私たちはあの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました」と言うのです。二人の話によると、イスラエルという国を解放するメシアとして望みをかけた。しかし解放することはできず、死んだ。それゆえでしようか。彼らはもはや「メシア」ではなく、ことばにも行いにも力があった「預言者」と言っているのです。

主イエスは人を「罪」から救うために来られました。二人の弟子はイスラエルをローマ帝国から救う方だと思っていたのです。復活の主に「あなただけ知らなかつたのですか」と言つたその第三に

そ、エルサレムにいながらそこで起こつた出来事について何一つ知らない人です。正確には、それは鞭打たれ、釘付けされ、血を流され、死なれた主だけが知つておられることです。誰も知らないのです。しかし決して鈍い、無知のままであつてはならないことがあります。主は人の「罪」ゆえに死ななければならなかつたことです。

人が「塵に帰る」、すなわち「死ぬ」ことになつたのは罪のためです。エマオに向かつて行く弟子たちの関心はイスラエルという国の解放でした。自分が罪から解放されなければならぬ現実を見ていないのです。死ぬべき者と定められた人の罪の現実を知つていたら、神の目に自分を塵にすぎない者として生きている自らの「罪」から救われることを唯一の望みとして生きるはずでした。そしてその者はメシアが自分を罪から救うために苦しみを受けて死ぬ、その聖書の証に自らの希望をおいて生きるのです。神は「聖なる者」を朽ち果てるままにはしておかれませんでした（使徒言行録十三章三十五節）。塵に帰ることをお許しになりませんでした。復活させられたのです。このキリストの復活は罪のない者、御心にかたう者になりたいたいと、立ち返りを唯一の希望として生きているそのような罪人たちにへの福音です。

神、キリストの最大の関心事は人が罪から救われ、罪のない、「聖なる者」となることです。その人を復活させられることです。しかし人の最大の関心事は、依然としてイスラエルが解放されるようなことにあるのを見ているのです。それゆえに「ああ、愚かな者たち」と語られる主のお声が今も、依然として響いていることを思うのです。復活を唯一の望みとして生きたいものです。

「何とかして死者の中からの復活に達したいのです。」（フィリピ三章十一節）

（ルカ二十四章十三節〜二十七節）

## 復活Ⅱ

・・福音によって命と不死を明らかにされた・・・。

テモテへの手紙② 一章・〇節

キリスト・イエスよ、あなたは  
わたしたちの命も  
墓から連れ出してくださいました。

どうかこのことが、薄明かりや闇の中に  
隠されてしまわないようにしてください。  
あなたの福音が

わたしたちを照らしますように。

わたしたちの心の中で燃えますように。  
そして、死をもたらすすべてのものに、  
不安な心、自己憐憫、焦り、高慢、  
憂鬱を飲み尽くしますように。

日常の災いの中で

わたしたちを強くしてください。  
わたしたちが自分を傷つける人々を赦し  
知らない人々に善を行いますように。  
わたしたちが耕す小さな土地に

御国の実りが育つように

御言葉と御霊とをもって

わたしたちの心の中に留まってください

わたしたちは祈ります。

まだ光の中に生きていない

総ての人々のために、

子どものことで悩む両親のために

不正な仕打ちを受けた若者のために

病める人や死にゆく人のために

与えられるものが少ない人たちのために

冷遇されている人、

悲しんでいる人たちのために。

わたしたちが、

あなたの御光の先駆けとして

少しでも元氣な心をもたらしますように。

わたしたちは諸々の民のために祈ります。

彼らの中で死が勝利を取っています。

あなたがすべての民のうちに、

あなたの命を、光り輝かせてください。

R・ポールン著 「祈る」より

楠原博行氏の訳による

## 今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコー  
ヒーサーブスがあります。聖告二階のリズム室で  
は「ぶどうの会」が開かれて、礼拝で受けた恵み  
の分かち合いをします。どうぞご参加下さい。

○第一礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。  
お昼はお弁当です。

○午後一時半から、久しぶりにハイデルベルク信仰  
問答を学ぶ会を行います。今回は問六五〜六八で  
す。説教と聖餐の意味について教える箇所です。  
新しい方々の参加を歓迎します。

○次回の洗礼式と転入会式は七月二十八日です。その  
時に受洗・転入会をご希望の方は、入信記を書い  
て、五月一九日までに牧師宛ご提出ください。

## 讃21 57番

ガリツヤの かぜかおる おかで - ひと  
 び とに はな された めぐみの みこと  
 ばを、 わたしにも きかせて ください。

(♩=84)

1  
 ガリラヤの<sup>ガリ</sup>風<sup>ツヤ</sup>かおる<sup>かぜ</sup>丘<sup>かみ</sup>で  
 ひとびとに話<sup>かた</sup>された  
 恵<sup>あま</sup>みのみことばを、  
 わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください。

2  
 あらしの<sup>あらし</sup>目<sup>め</sup>波<sup>なみ</sup>たける湖<sup>うみ</sup>で  
 弟子<sup>でし</sup>たちにさ<sup>さ</sup>とされた  
 ちからのみことばを、  
 わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください。

3  
 ゴルゴタの<sup>ゴル</sup>十字<sup>じゅうじ</sup>架<sup>か</sup>の上<sup>のうへ</sup>で  
 つみびとを招<sup>まね</sup>かれた  
 すくいのみことばを、  
 わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください。

4  
 夕<sup>ゆふ</sup>ぐれのエマオへの<sup>エマオ</sup>道<sup>みち</sup>で  
 弟子<sup>でし</sup>たちに告<sup>つ</sup>げられた  
 いのちのみことばを、  
 わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください。

ア - メ ン。

### 聖書の会

5月8日(水)

● 朝の聖書の会(10時)

「あなたの罪は赦された」

マルコ2章1節〜12節

菊池美穂子 副牧師

● 聖書の夕べ(19時)

「わたしの食べ物とは」

ヨハネ4章27〜42節

黄允湜 副牧師

### 次週礼拝

● 第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 22番 讃21 57番

説教 「あなたが復活するため」

聖書 ヨハネ6章34〜40節

説教者 菊池美穂子 副牧師

● 第二礼拝(午前11時10分)

讃美歌 147番 239番

詩篇 23篇

説教 「裁きの日には」

聖書 マタイ11章20〜24節

説教者 黄允湜 副牧師



## 第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 22番

讃21 57番

説教 「体のよみがえりを信じる」

聖書 ルカ24章36節～43節(新約P161)

司式 山下純一 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 菊池 美穂子 副牧師

前奏曲「今日神の子は死に打ち勝ち」 J.S.バッハ

### ○讃美歌 22番

1. めさめよ、わがたま あさ日<sup>あ</sup>にともない  
あしたのほめうた みまえにささげよ
2. むなしくすどしし ときをばつぐのい  
ちからのかぎりに みわざをつとめよ
3. うえよりたまわる たからをもちいて  
おわりのさばきに かしこみそなえよ
4. かくるるものをも 主<sup>ま</sup>は知りたまえよ  
ことばとおもいを ひたすらきよめよ
5. めさめよ、わがたま この日<sup>ひ</sup>もひねもす  
みくにをのぞみて いそしみはげめや

アーメン

### ○ヴィオラによる讃美

「即興曲 第3番」 シューベ<sup>ル</sup>

### ○讃21 57番

1. ガリラヤの嵐<sup>あらし</sup>かおる丘<sup>かみ</sup>で ひとびとに話<sup>かた</sup>された  
恵<sup>あま</sup>みのみことばを わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください
2. あらしの白渡<sup>しろわた</sup>たける湖<sup>うみ</sup>で 弟子<sup>でし</sup>たちにさとされた  
ちからのみことばを わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください
3. ゴルゴダの十字架<sup>ごるごだのじゆうじふ</sup>の上<sup>のうへ</sup>で つみびとを招<sup>まね</sup>かれた  
すくいのみことばを わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください
4. 夕ぐれのエマオへの道<sup>みち</sup>で 弟子<sup>でし</sup>たちに告<sup>つ</sup>げられた  
いのちのみことばを わたしにも聞<sup>き</sup>かせてください

アーメン

## 第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 146番 336番

詩篇 第23編(旧約P854)

説教 「苦しみから希望へ」

聖書 ローマ5章1節～5節(新約P279)

司式 山下純一 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「前奏曲ト長調」 J.S.バッハ

### ○讃美歌 146番

### ○ヴィオラによる讃美

「即興曲 第3番」 シューベ<sup>ル</sup>

### ○聖歌隊による讃美

「死の鎖を」 12世紀ドイツ讃美歌

死の鎖を解き放ちて

救い主イエスこそ よみがえりましめ

主よ、憐れみたまえや

よみがえりなくば なお死せる身を

死に勝ちし主は、生かしめたまえり

主よ、憐れみたまえや

死の鎖を解き放ちて

救いの主をぞ 我らほめたたえん

ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ

### ○讃美歌 336番

聖餐曲「アンダンテ」 L.ヴァン

後奏曲「いざやともに」 H.マルク

聖餐曲「春、よるこびの日」 L.ヴァン

後奏曲「いざやともに」 H.マルク

×礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。